

# きずな

2010年 6月24日

NO 797

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

井原市議会6月定例会で16日に日本共産党の森本ふみお議員が6項目質問しました。森本議員の質問と執行部の答弁の概要は次のとおりです。

## 森本ふみお議員の質問の概要

### ◆子どもの医療費の公費負担を通院も中学校卒業までに引き上げては

現在、医療費の患者負担を入院についてのみ中学校卒業まで（通院は小学校3年生まで）公費で賄うことになっています。

私のところには、多くの市民から通院も入院と同じように中学校卒業まで無料にしてほしいという声が寄せられています。



近隣の自治体の多くが、通院・入院とも中学校卒業まで無料にしています。

今年度から子育て支援課が新設されました。真に子育て支援を強める観点からも、また、県もこの程、該当年齢を引き上げました。その分だけ市の負担が軽減されるわけですから、この際、思い切って「通院」も中学校卒業までに引き上げてはどうですか。

### ◆ごみ出し用の指定ごみ袋の容量の少ないものを作成してはどうですか。また、袋代が「高い」という声にこたえて引き下げてはどうですか

現在、家庭ごみの排出には市指定の「ごみ袋」を使用していますが、少人数家庭では、15ℓ袋でも大きすぎて無駄になると感じておられます。

特に生ごみを袋がいっぱいになるまで自宅に保管しておく、梅雨の時期や夏場には悪臭が出て大変です。

この解決方法は、15ℓ袋より少ない容量の袋を作るしかないと思います。この市民の声にこたえて容量の少ない袋を作成してはどうですか。

これらを判断するためにも、ごみ出しの実態調査を行ってはどうですか。

また、このたびアンケートを考えておられるようですが、それによりますと、ごみ袋の値段についての市民の考えをお尋ねする質問が欠落していると思います。「高い」という声が強いのであえて入れなかったのでしょうか。「高い」との声にこたえて引き下げてはどうですか。

アンケートを7月中に回収し、大よそいつ頃までにまとめて、どういう風にするというお考えでしょうか。

### ◆女性の管理職への登用を積極的に進めるよう考えでは

市長は、現時点で女性の管 **2面左側へつづく**

## 左の質問に対する執行部答弁の概要

子どもの医療費公費負担は、平成17年10月に対象者を小学校就学前までに、平成19年度から小学校3年生までに拡大してきた。

更に今年度から、入院費用について中学校卒業まで拡大するなど、子育て家庭への負担軽減を進めてきた。

通院について中学校卒業まで無料化した場合、市の財政負担額が、新たに約6300万円の負担増になる。

一方では、非常に厳しい地域医療の実情があり、無料化の拡大が安易な受診につながるという声も聞きます。

医療費の（無料化の該当年齢の）拡大というのはこれで充分であるとは考えておりません。今後、最重要課題として医師会とも良く協議しながら、前向きな検討を進めたい。

家庭ごみ有料化は、昨年10月に完全実施しましたが、皆様のご協力によって燃やすごみが昨年10月から今年の3月までの対前年度同期で約30%の減、燃やさないごみが同じく約49%の減と顕著に減量化の効果が出ており、厚く御礼申し上げたい。

家庭ごみ有料化実施後の昨年12月に井原クリーンセンターで委託3業者の搬入ごみについて実態調査をしたところ、45ℓ袋が約35%、30ℓ袋が約29%、15ℓ袋が約36%という使用状況でした。搬入時の実態調査は今後も順次実施し、状況を把握していきたい。

有料化完全実施後8ヶ月が経過しており、実施後の状況をお尋ねし、今後の指定ごみ袋、収集体制等の参考とするため、アンケート調査を実施します。

15ℓより小さい袋の必要性については、そうした声も聞いているので、アンケートの中にも入れています。

袋の金額の設定については、ごみの減量効果が上がり、且つ、市民の皆様にも過度の負担をかけない金額に設定しており、現時点での引き下げは考えておりません。



アンケートは、9月の中旬くらいまでには取りまとめ次の段階に入って行きたい。

女性の管理職登用率の目標数値については、年代により男女構成比率が異なることから特に設定はしていません。

本市の管理職への登用につい **2面右側へつづく**

**1面左側からつづく**

理職登用をどの位にすべきだとお考えでしょうか。  
 合併当時(平成17年4月1日現在)課長補佐級以上の女性の管理職は全体の9.64%の8名で、部次長級も3名いました。平成19年以後は徐々に減少し、今年度の平成22年4月1日時点では、部次長級、課長級はいなくなり、課長補佐級が5名で、管理職全体の6.25%に減ってしまっております。  
 優秀な女子職員を管理職に登用し、女性の目・観点で職務に反映していただくことは、市民にとっても非常に良いことだと思います。  
 今後意識的、積極的に女性の管理職登用を考えてはどうですか。

**◆市有墓地の管理を徹底すべきではないですか**

現在、市は、市有墓地60カ所の管理をほとんどやっていないというのが実態のようです。  
 早急に実態調査を行い、墓地条例の11条(墓地の返還)、12条(使用許可の取り消し)に沿って処理し、墓地を求めておられる市民に使用してもらえるよう条件整備をすべきではないですか。返還、取り消しをした件数がいくらありますか。  
 空き区画が6区画あるそうですが、市民にこのことを広報するようにはどうですか。



**◆特別養護老人ホームの実態把握と施設増を**

市内全ての特別養護老人ホーム(特養)の入所者数、待機者数などの実態調査を行っていますか。もしやっていないようでしたら、市内の各施設から正確な待機者が把握できるような報告を受け、名寄せをしながら実態調査を行い、特養に対する市としての対応策を打ち出すべきではないですか。  
 市として特に待機者が非常に多い現状をどう解決すべきだとお考えでしょうか。また、施設増を積極的に進める必要があると考えますがどうですか。

**◆薬師橋架け替えと、たちまちの処置として欄干を高くしてはどうですか**

現在の「薬師橋」は昭和37年に架けられたもので48年が経過しています。架け替えを検討する時期に来ているのではないのでしょうか。  
 また、狭いということもあって、歩行中や自転車で通っていて大きい車が来た時には、歩行者や自転車は非常に危険で、欄干が低いので、川に転落する危険もあります。  
 まず応急の処置として、両側の欄干を高くするなど、市民の安全を守る対策を講じるべきだと考えますがどうですか。

**1面右側からつづく**

では、男女を問わず本人の能力、資質、及び実績に応じた適材適所の登用を行っています。  
 管理職には、課題を多角的に検討し、適切に処理することができる能力、施策の進行管理と調整をすることができる能力、組織力を高めるためのリーダーシップ、そして長期的・総合的な視点で市政をとらえ政策を企画立案できる能力などさまざまな能力が求められ、職務に対する意欲も更に必要になってきます。  
 女性の管理職への登用については、最も重要なことは管理職にふさわしい能力、意欲ある職員を男女の区別無く登用することだと考えています。

市有墓地は昭和28年の合併の際、旧町村が持っていた使用者台長、区画割図面を引き継ぎ、それを元に市有墓地として管理しておりますが、市有墓地となった経緯は様ざままで、把握は非常に困難な状況にあります。  
 しかしながら、できる限り未使用区画の現地確認をできるだけ早く調査方法も考えながら、全体の概要調査から始め、墓地台長の整備を行い、市民の墓地需要に応えるための条件整備に努めたい。  
 現時点で直ちに貸し出しに対応できる区画は6区画(木之子町立岩3、西江原町緑青平1、下稲木町宇才田2)あります。  
 平成17年以降の返還は19件、使用許可の取り消しはありません。広報については、今後どのような方法がいいか検討したい。

現在、井原市内には広域型特別養護老人ホームが4施設、定員29名の地域密着型小規模特養が1施設あり、定員の合計は299名となっています。  
 特養以外の介護保険摘要入所施設(ケアハウス、グループホームなど)は11施設、定員247名が市内に整備利用されており、特養と合わせると入所定員は546名となっています。  
 待機者数については、年度当初に施設からの聞き取りにより状況把握していますが、本年4月末現在の各施設の待機者数の合計は1427名でその内井原市の方が961名です。待機実人員については詳細に把握できていないのが実情です。  
 今後施設の協力を得て、名寄せをしながら実態調査をやって行きたい。

この橋は、幅員が3m延長160mで、管理区間は井原市分が104メートル、笠岡市分が56mです。平成21年度で実施した橋梁長寿命化修繕計画策定事業による橋梁点検で、路面や高欄など軽微な補修は必要とされるものの、橋自体に大きな損傷等が無いことを確認しています。したがって、現在のところ薬師橋の架け替えは考えていません。  
 欄干の高さが73cmで、自転車・歩行者の通行に危険なので、笠岡市と協議を行いながら安全対策を実施したい。  
 いま考えている安全対策は、約1m10cm位の手すりか欄干を付けたいと考えています。時期的には笠岡市と協議の上決めて行きたい。

この「きすな」は森本ふみお議員のブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます